

第5回 品川区子ども読書活動推進計画策定委員会 会議録（要旨）

日 時：令和2年2月18日（火）9時30分～11時30分

会 場：荏原第五地域センター 区民集会所 第3集会室

出席者： ◎委員長、○副委員長

委員	(出席委員) 島田貴司委員○、豊岡耕一郎委員、平嶋悦子委員、巻島淳子委員、佐藤保育課長、崎村子ども育成課児童相談担当課長（代理出席）、守田源治前小学校長、仁平品川保健センター所長、山崎二葉幼稚園長（代理出席）、大関教育総合支援センター長（オブザーバー） (欠席者) 本城善之委員○、蜂屋戸越台中学校長
事務局	横山品川図書館長、邑橋事業担当係長、渡辺事業担当係長、菴原事業担当主査、小田桐主任主事、門脇主事、林主事、比嘉主事、青木指導主事

傍聴者：1名

1. 委員長挨拶
2. パブリックコメントの結果報告
3. 品川区子ども読書活動推進計画（案）について
4. 各委員より計画（案）について

<主な意見>

委 員：パブリックコメントのなかで学校図書館の支援活動の充実が求められていたが、運営スタッフはよくやってもらっているが、教員による生徒への働きかけは十分ではないかもしれない。現場も悩みながら取り組んでいるが、学校司書は熱心に活動してもらっており、助かっている。

委 員：読むことに困難さがある子どもに対するパブリックコメントでの意見は建設的だと思う。子どもたちの現状を捉えてもらいたいという趣旨だと思うので、自分たちの取り組みにも参考したい。

委 員：パブリックコメントの意見には同感するものが多い。子どもの育ちと読書は切り離せないなので、スタッフが大事だと思う。区が思う子どもの育ちと自立に対して、今

回の計画がどのようにかかわるのが大切である。子育てをしている人にも伝えないといけない。

- 委員：家読を取り上げると負担に感じる保護者もいる。「家読をやらなければいけない」という義務感を感じさせないように注意しながら働きかける必要がある。
- 委員：学校図書館は重要だと感じており、本校の学校司書は生徒に積極的に働きかけをしてきており、読書活動が充実してきている。学校司書のスキルによるところと感じているので、人材育成が大事である。
- 委員：学校司書の配置には課題があるとは思いますが、子どもと本を結びつける人材として学校司書は必要だと思う。
- 委員：外国語を母語とする児童・生徒もおり、朝読の際に適切な資料がないケースもある。学校図書館でも多国語に対応していく必要があり、それを日本人の子どもも手に取れる環境になっているとよいと思う。
- 委員：パブリックコメントでは学校図書館を毎日開いてほしいという意見があった。各校に事情はあると思うが、区の全学校がそのようになるように取り組みたい。
- 委員：パブリックコメントのなかには学校図書館のスタッフの充実を求める意見があった。現状、スタッフが週 2.5 日配置されており、授業支援には有効だと感じている。ただ、子どもにとって十分かというところではなく、毎日配置されていることが理想だと思うので、行政において検討いただきたい。
- 委員：学校では家庭での読書活動の大切さを発信するが、保護者が聾である場合の対応についての意見をみて、自分の視点が欠けていたことに気づいた。今後の取り組みにおいては留意していきたい。
- 委員：乳幼児期は本を好きになる土台をつくる時期だと思う。子どもがはじめて本に触れるときは、親しい大人に読んでもらいたいと思う。愛着が形成されながら本を好きになっていくことが望ましいので、家読は大事だと思う。義務感ではなく、子どもに読んであげたいという思いから取り組んでもらいたい。
- 委員：子どもが生まれてからは余裕がなくなるため、妊娠期から子どもの読書について紹介しておくことは有効ではないかと思う。
- 委員：読むことに対する困難さに対しては支援のための機材も増えてきているが、子どもの様子を見てみると困難さを把握するための知見も広まってきている。担任のみならず、学校図書館にかかわる人たちも目配りいただき、子ども一人ひとりへの支援を充実させることはできると思う。一人も取りこぼさずに読書活動ができるようになるとよいと思う。
- 委員：学校図書館を居場所として活用することについては、各校の状況に応じて取り組んでいると思う。居場所は学校図書館だけではないと思うが、学校図書館の運営体制を考えながら、取り組んでいけると思う。
- 委員：子ども読書活動の推進は、図書館だけでなく、学校・学校図書館への期待が大きいと感じる。計画書（案）でも示されることとなったので、行政としても取り組んでいかないといけないと感じる。

- 委員：パブリックコメントのなかに図書館に幼い子どもを連れて行きにくいという意見があった。図書館でも取り組む必要があると思うが、児童センターがその受皿になれる部分があるかと思う。
- 委員：乳幼児期は本を好きになるための土台をつくる大事な時期であるということを改めて感じた。
- 委員：学校図書館の運営に携わっている立場からすると、週 2.5 日では十分でないと感じる。また、スキルアップも行っているものの週 2.5 日以外の日程で取り組んでいる状況である。毎日配置されることが望ましいが、それ以前に人材育成を行う組織を準備する必要があると考えている。スタッフ個々の努力ではなく、組織的に取り組めるとよいと思う。
- 委員：学校図書館のスタッフの給与が低いため、人材確保にあたっては検討すべきことだと考える。
- 委員：自分のNPOでは、地域で乳幼児向けに本を紹介する取り組みをしているのだが、自前で蔵書を整備した。本を紹介したタイミングで借りられるとよいと思つてのことである。公立図書館以外でも、子ども連れでアクセスでき、本を手にとれる場所があるとよいと思う。
- 委員：今回の計画案は3つのポイントがあると考えている。区では積極的に取り組んできたと思うが、今回、家読を取り入れたことで家庭も含めた広い主体で取り組んでいくことができるようになった。読むことに困難さがある子どもを位置づけたことも大きいことだと思う。最後に、ヤングアダルトに対する取組が最大のポイントになると思う。全国的に課題視されている世代だが、中高生が改めて読書に向き合う機会をつくっていく必要があると思つており、そのような事業を進めていけるとよいと思う。

5. 計画概要版（案）の確認

<主な意見>

- 委員：未就学児の対象別目標の説明文が分かりにくいので修正を検討いただきたい。

6. 事務連絡

7. 各委員より挨拶

- 委員：委員会での意見交換を通じて学校図書館の重要性に気づいた。また、子どもの読書活動に様々な主体がかかわっていることにも気づくことができた。
- 委員：小学校で読み聞かせを行っているが、子どもと本のかかわりが変わってきていることを感じる。読み聞かせの大切さや本の与える影響、ICTとの共存などに十分な知識を持ってはいないと思つていたが、自分なりにスキルアップしないといけない

と感じた。

委員：学校図書館の役割も変わっていくと思うが、それを活かせるようにしていかないといけないと感じた。

委員：学校図書館だけでなく、区の図書館も含めて取り組むことで、子どもだけでなく、大人も含めて読書に前向きになってもらえるとよいと思う。

委員：学校長として子どもに本や読書のよさを紹介するが、子どもたちの興味・関心の種をまくことが大事だと感じている。そのようなとき、学校司書に助けてもらっている。外遊びもよいと思うが、学校図書館で時間を過ごせるようにもなるとよいと思った。そのような学校図書館を目指したい。

委員：メディア環境は日々変化しているが、今回の計画改定には、メディア環境に視点を置いていることがよかったと思う。

委員：計画は策定することがゴールではなく、スタートである。本計画には様々な事業が位置づけられているが、それらを取り組んでいけば結果が出るのだと思う。図書館だけでなく、子ども子育て支援の分野でも取り組んでいきたい。

委員：子どもが本を読むことが楽しいということを知ってもらいたい。また、本を通じて理想の大人像を見つけてもらいたいとも思っている。そのような機会づくりを、学校図書館や地域で取り組んでいきたいと思う。

8. 委員長挨拶

以上